

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
教育部会長 若 林 克 彦
両団体専務理事 清 原 淳 平

教育部会のお知らせ (第327回)

日 時 平成28年10月28日(金) 午後1時半～3時半

場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第4会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車2分、永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、受付に「第4会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎えにまいります。

議 題 1、最近の高等教育改革について思う

挨拶 若林克彦部会長(国土舘大学元学長)

2、高等教育政策の主な動き

解説 文部科学省高等教育局 塩見みづ枝高等教育企画課長

—— 多忙な中、高等教育局からの解説。奮って御参加を！ ——

報 告 去る9月30日開催の第326回教育部会は、若林克彦部会長が議長を務め行われました。まず、若林部会長より、「最近の高等教育改革について思う」と題して開会挨拶がありました。職業教育に特化した「専門職業大学(仮称)」の設置が中央教育審議会の答申に盛り込まれた。即戦力を求める産業界からの要望に基づき、豊富な実習と弾力的な修学年限が可能な専門学校と認証評価を行い教育の質を保証する短大の両方の利点を持った制度設

計が考えられている。法科大学院が成果を上げていないことを踏まえて、最初は多く作らず、分野が絞られるであろう。

次に、「高等教育の検討すべき課題」と題して、これまで13回にわたって行われたレクチュアの内容を振り返り、課題を検討しました。○日本の大学が世界大学ランキングの上位に入れないことを踏まえると、大学に進学する数を絞り、それ以外は専門学校へ進む。上位大学に補助金を傾斜配分し、下位の大学は廃校やむなしとすることで質の向上を図るのも一手か。○中学・高校あたりで職業選択にかかわる意識をしっかりと固めることが不足しているという声があった。○成績中間層以下の学習意欲低下は複数の講師から上がっている。○教養課程は高校の内容の焼き直しに過ぎないので思い切って廃止する大学もあった。○4～5年後に新しく導入する二種類の基礎学力テストには、大学のレベルについていけない学生を減らす意味で期待したい。○医学部のなかには学費がかなり高額になる場合もあるようだが、奨学金を返せない学生が続出しているという問題もあり、奨学金のあり方についても検討が求められる。○4年次の前半が就職活動で追われ研究ができないので困っているとの声も複数の講師から上がった。現行の就職活動に関するルール作りは経団連も巻き込んで再検討して欲しい。○大学ランキングには留学生の受け入れ数を考慮しているものもあるそうだが、産業スパイの発生や不法就労する事例も後を絶たず、あまり意識しなくてよいとの声もある。○法科大学院などの制度や、教育に関する費用を完全無償化し全額国庫負担する考えなど、外国の制度をそのまま取り入れても失敗する事例が多い。等々の意見が出ました。

★レクチュアにつき、資料代千円に御協力御願い申し上げます。

次回、10月28日（金）の教育部会に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名

貴方様の F A X

電話

テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、前日までに事務局へ御連絡下さい。

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320
H P <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp